

情報開示と議論無き T P P 承認に反対する緊急行動を実施

連合北海道は11月4日、政府与党による衆議院特別委員会での T P P 締結承認案及び関連法案の強行採決を受け、札幌市大通西4丁目において、これに反対する緊急行動を約300名の参加のもと開催した。

主催者挨拶にたった北海道農民連盟石川純雄委員長は「T P P 協定承認案が、山本農水大臣の問題発言などがある中で強行採決された。そもそも強行採決は民主主義の否定であり国会を冒瀆するものである。十分な情報開示や説明もないまま批准に突き進む政府与党に強い怒りを感じる。T P P が北海道を支えて地域で働く人達に全く恩恵がなく、負の遺産でしかないことを皆さんと共に共有し、道民の意志として断固反対を訴えていく。」と政府を痛烈に批判し、闘いの決意を述べた。

続いて、民進党北海道副代表であり参議院 T P P 特別委員会の筆頭理事でもある小川勝也参議院議員よりこれまでの国会での経過と今後の進め方について報告がされた。その中で小川議員は「T P P はいい。私たちが欲しいのは持続と安心だ。この T P P の闘いを左右するのは世論の盛り上がりである。国民の皆さんが大きく声を発することができる参議院での審議を心がけていきたい。」と述べた。



引き続き民進党北海道代表代行徳永エリ参議院議員もマイクを握り「T P P は安全保障関連法と同じくらい日本にとって重要な問題。丁寧に時間をかけて審議をし、国民の前に問題点を明らかにして不安を払拭することが必要。」と訴えた。

最後に連合北海道出村良平会長が「強行採決は決して認められるものではなく、これもまた安倍政権の暴走の表れだ。粘り強くこの T P P に断固反対、批准阻止に向けて頑張っていこう。」と参加者に呼びかけ、団結ガンパローで集会を締めくくった。

終了後、参加者は市内をデモ行進し、T P P 批准反対や、暮らしを壊す T P P はいいなど、市民にアピールし理解を求めた。

